THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS
日刊 建設工業新聞
平成29年10月25日（水曜日）

足立参院議員

足立参院議員 期待が成果につながった

選挙結果 業界が喜ぶ施策打つ

足立敏之自民党参院議員は23日、全国建設業協会（全建）傘下の中国地区の建設業協会が国土交通省と開いた意見交換会後の懇親会であいさつし、22日に投開票された第48回衆院選を振り返った。自民、公明両党で3分の2議席を維持したことを含め「大きな成果を挙げられた」と述べた上で、「全国を回ってみると、公共事業が枯渇する懸念のある地域があり、（予算拡大の）期待が結果につながった」との認識を示した。

16年7月の参院選で建設分野の職域代表として初当選してから初の衆院選となった。大型公共事業の見直しや公共投資の削減を公約に掲げた政党が少なくなかったことから、同じ職域代表の佐藤信秋自民党参院議員と共に、候補者の応援や支持の呼び掛けに奔走。かつて公共投資の削減がもたらした影響を説明し、「大変な時代を忘れてはならない」などと訴えた。各地の選挙の協力者には「動員で終わらずに存在をアピールすること」を求めた。

ある選挙区では、以前に公共投資削減の急先鋒として多くの事業のストップをけん引した経験を持つ候補者が、自公政権下で事業が再開に至った事実に言及せず、高速道路の4車線化の決定に貢献したような主張を展開したことに地元建設業団体が強く反発。「選挙のために自分の仕事を偽り、県民をだますような行為」と指摘する異例の抗議文を出した。

「たくさんの候補から支持者へのお礼の言葉を頂いている。これからはお返しが大事になる」と足立氏。衆院解散後の9月29日からの23日間に交通機関を乗り継いで移動した距離は約2・3万キロ。1年2カ月で20万キロだった自身の選挙戦を上回るペースで各地の候補者の応援や集会、懇親会などに駆け付ける中で、補正予算の早期編成を求める意見を数多く耳にした。

「皆さんが喜んでいただける施策を打ちたい。建設分野は本当に頑張った。ありがとうございました」。そう謝意を重ねて、あいさつを締めくくった。